



秋の叙勲

瑞宝小綬章

教育功勞

川原 和雄氏(米湊)

叙勲とは、国家または社会に對する功勞者を対象に、国が旭日章または瑞宝章のいずれかを毎年春と秋に授与する栄典のひとつです。

川原氏は、36年間もの長きにわたり、教育者としてご活躍され、瑞宝小綬章教育功勞を受章されました。



農林水産大臣感謝状

特別協力者

(株)黒川木材工業

代表取締役

黒川 昭廣氏(市場)

黒川氏は、平成3年4月から木材製品生産動態調査標本製材工場調査に協力し、製材月別調査工場客体として19年余の長きにわたり、製材生産量についてきめ細やかなデータを提供するなど、農林水産統計調査に對し深い理解のもとご協力されました。また、株式会社黒川木材工業代表取締役として、地域林業の振興に貢献される一方、農林水産統計の利用・普及に努められるなどの功績により、特別協力者として感謝状が授与されました。

永年協力者

農業経営統計調査農家

城戸 伊左夫氏(上唐川)

城戸氏は、農業経営統計調査農家として10年にわたり、農業生産活動のために投下した資材と労働、生産物の販売量・価額・財産状況などについて詳細に記帳し、農林水産統計の発展に貢献したことにより、永年協力者として感謝状が授与されました。



県知事表彰

人権・同和教育推進

功勞者知事表彰

戸田 訓弘氏

(双海町大久保)

11月10日に開催された「愛媛県人権・同和教育研究大会」において、戸田氏は、地域の人権・同和教育の積極的推進に永年にわたって寄与されたことが評価され、愛媛県知事から人権・同和教育推進功勞者として表彰されました。戸田氏は、旧双海町教育委員会職員時代から、同和教育をはじめとする人権教育に積極的に取り組まれ、教育長を退職してからも地域の人権教育推進者としてご尽力してこられました。



中学生「税についての作文」 市長賞受賞作品

税金について考える

八木 瞳さん(港南中3年)

今、消費税が10%に引き上げられるかもしれないというところで、賛成・反対、さまざまな意見が出ている。消費税といえば、私たちの買い物に直接関わっているものなので、とても身近な税金だ。それが10%になると、言われれば、少し考えてしまう。家計にも大きな影響を与えるだろう。しかし、高齢化が進む中、社会保障の充実のためには、いざしれ引き上げられる必要が出てくるだろうと言われている。

では、社会保障とはいったい何だろう。

私は、幼児期からアトピー性皮膚炎のため、毎月病院にお世話になっていて。また、妹や弟は、慢性疾患のため通院していた時期があり、入院したこともあった。個々の一回分でみれば、金額としてさほどではないかも

しれないが、三人の医療費で何年もということになるとかなりなものだ。しかし、この支払い額は、全体の三割だという。税金による保障がなければ、さらに大きな金額になるだろう。私は、まったく知らないうちに、この税金の恩恵をうけていたことになる。

デンマークでは、消費税が25%もあるそうだ。その数字は、とても驚いたのだが、しかし、その支出の約四分の一は、社会福祉関係に利用されており、その税率は当然のことと思われる。それは、自分たちの納めた税金が有意義に使われ、自分たちの生活を豊かにしてくれているという実感があるからだろう。

日本でも、もし税金がなければ、今、当たり前のようにある生活のすべてが崩れていく。そのくらい、知らない間に税金による保障に頼っているというこ

とをもつと意識しなければならぬ、と今回改めて思った。

ただとられるだけの税金ではなく、自分に返ってくる税金であるということをみんなが理解し、その使い道がよいと分かれば、増税に反対する人や税金を納めない人もいなくなり、デンマークの人たちのように、消費税は欠かせないという意識に変わってくるのではないだろうか。

だからといって、私は増税に大いに賛成という訳ではない。やはり、まず第一に不必要な支出を増やさず、国民が納めた税金を一円たりとも無駄にせず、大切に使うことを考えてもらいたいと思う。

私たちが生活も心も豊かに過ごせるような世の中になるよう、税金について正しい知識を身に付けていかなければならぬと感じた。

伊予双葉柔道会

文部科学省では、地域または職場におけるスポーツの健全な普及および発展に貢献し、地域におけるスポーツの振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者及びスポーツ団体を、「生涯スポーツ功労者」・「生涯スポーツ優良団体」として表彰しています。このたび、伊予双葉柔道会が生涯スポーツ優良団体として表彰され、文部科学大臣から表彰状と記念品が贈られました。

生涯スポーツ 優良団体表彰

